

S P H Super Professional HighSchool

スーパープロフェッショナルハイスクール

を知っていますか？

スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)とは

平成26年度から文部科学省が実施している事業で、農業・工業・商業・福祉などの専門高校が、大学、研究機関、企業などと連携を強化することにより、社会の変化や産業の動向に対応できる高度な知識・技能を身に付けた、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を図るものです。

認定期間は、原則3年間(専攻科を含める場合は最長5年)となっていて、毎年、全国で10校前後が指定されています。

平成30年度に県立熊本工業高等学校が採択

平成30年度は、全国から47校の応募があった中、8校がSPHに指定されており、そのうちの1校が熊本工業高校です。工業高校では1校のみ、また、九州の工業高校からは初めての採択となります。

SPH指定校は、それぞれにテーマを掲げて人材の育成を図っていくこととなりますが、熊本工業高校は、「産学官協働により災害対応型エンジニアを育成する」をテーマとしています。

これは、産学官が協働して、災害対応型エンジニアを育成する教育プログラムの開発に取り組むことにより、熊本地震の経験を生かし、防災、減災や災害発生時において、適切な対応や貢献ができる人材を育成するというものです。

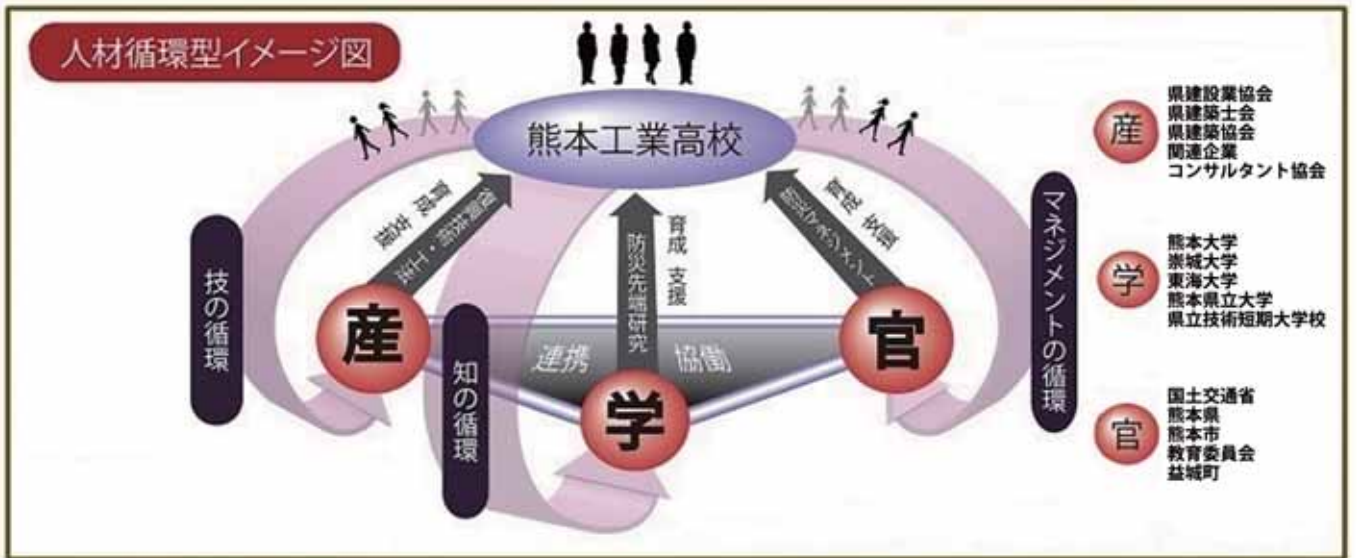
具体的には、次のような人物像の育成を目指しています。

- ・インフラ復旧に貢献できる力を備えた人材(土木科)
- ・新耐震建築の構造を理解し、復興に寄与できる力を備えた人材(建築科)
- ・居住空間のコミュニティ促進に貢献できる力を備えた人材(インテリア科)

「災害に対応できるエンジニア」育成のために

熊本工業高校では、SPHの授業として、国土交通省や大学から講師の派遣を受けて、熊本地震の対応などに関する講義・講演を行っています。また、企業の協力により、現場見学、重機の操作体験など、実践的な授業も行っています。

これらの授業を通して、「災害に対応できるエンジニア」として、各地域をリードする人材の育成を図っています。



熊本工業高校のSPHテーマのイメージ図(上)とSPHの授業風景(下)
(図および写真は熊本工業高校からの提供)

産学官連携では益城町とも連携

熊本工業高校のSPH授業では、益城町の災害公営住宅での取り組みも行われています。

町で行っている「顔合わせ会」だけでは深まらない住民同士の交流や、国からの補助金ではできないことなど、町と熊本工業高校の連携で行っています。

その取り組み風景を、次のページから紹介します。